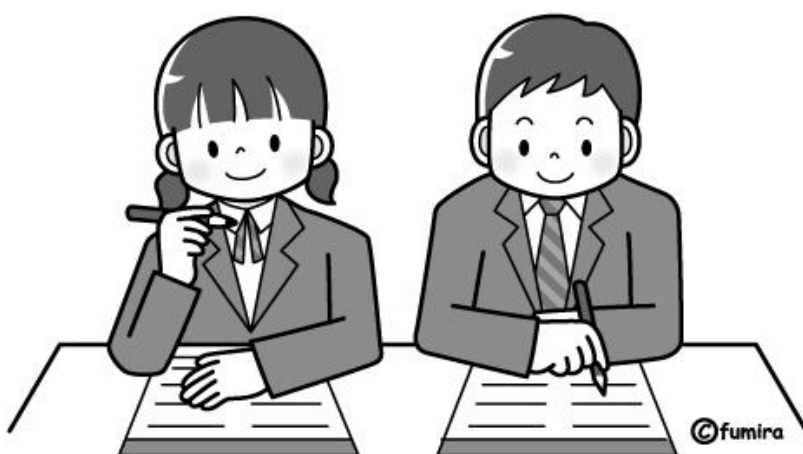


狭山市立狭山台中学校
令和8年度 第2学年

シラバス

〈学習案内〉



☆このシラバスには、各教科の学習内容・学習ポイント・評価方法が書かれています。

【国語科 シラバスについて】

令和8年度 狭山市立狭山台中学校 第2学年 国語科 授業計画

1) 教科の目標

- ・ 日常生活で活用できる言語能力を身に着ける
- ・ 文字を正しく正確に書く習慣を身に着ける

2) 評価の観点

「知識・技能」

学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。

「思考・判断・表現」

知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかを評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面と、その粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面を総合的に評価する。

3) 評価の方法

(1) 「知識・技能」について

○ 「言語事項」の学習活動

- ・ 定期テストの「語句・言語に関する問題」 ・ 休み明け漢字テスト
- ・ 硬筆 ・ 書き初め

(2) 「思考・判断・表現」について

○ 「話すこと・聞くこと」の学習活動

- ・ スピーチ ・ 聞く態度 ・ 聞き取りテスト ・ 発言、発表の仕方

○ 「書くこと」の学習活動

- ・ 定期テストの課題作文 ・ 授業プリント ・ 読書感想文

○ 「読むこと」の学習活動

- ・ 定期テストの「読解問題」 ・ 授業プリント ・ 小テスト ・ 発表の内容

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」について

○ 主に授業中の態度や、日常的な学習・提出物で評価します。

- ・ 発言 ・ 提出物（授業ノートや漢字スキルワーク・別冊テストなど）の内容
- ・ 古文の音読テスト ・ 古文の暗唱テスト（定期テストも含む）

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単 元	学 習 内 容
1 学 期	4	1, 広がる学びへ 見えないだけ アイスプラネット 枕草子 多様な方法で情報を集めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の用い方や表現の特徴に注意し、自分なりの感想をもちながら読む。 ・登場人物の言動や心情を表す表現などに注意して作品を読み取る。 ・日本の四季を描いた情景の描写の巧みさを読み取る。 ・多様な方法で情報を収集し、図や記号を用い整理して伝えたいことを明確にして書く。
	5	漢字①熟語の構成 硬筆	<ul style="list-style-type: none"> ・熟語の構成について理解する。 ・横書きの楷書を形を整えて書く。
	6	2, 多様な視点から クマゼミ増加の原因を探る 魅力的な提案をしよう 情報社会を生きる メディアを比べよう 「自分で考える時間」をもとう 文法①自立語 3, 言葉と向き合う 短歌に親しむ 言葉①類義語・対義語・多義語	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の全体と部分の関係や文章と図表の関係に注意して読み、理解を深める。 ・聞き手の立場を想定して話題を決め、効果的に伝わるように構成を工夫する。 ・視覚的にも工夫し、相手の反応を見ながら話す。 ・目的に応じて適切な情報を得て、内容を解釈する。 ・ニュースがどのように編集されているかについて、具体例を基に考える。 ・活用のある自立語とない自立語の働きを理解する。 ・短歌に示された語句の効果的な使い方や文章の描写の効果を理解し、情景を想像して朗読する。 ・類義語と対義語、多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意する。
2 学 期	9	4, 人間のきずな 盆土産 字のない葉書 言葉②敬語 漢字②同じ訓・同じ音をもつ漢字 表現を工夫して書こう [推敲]表現の効果を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の効果的な使い方を理解し、表現に即して優しさや温かさなどを読み味わう。 ・人物の言動や様子を描写した表現、心情を表す語句に着目し、その人柄や心情を捉える。 ・日本語の敬語表現の特徴について理解を深め、その使い方を身につける。 ・同音異義語など、意味・用法の異なる漢字や熟語について理解する。 ・相手や目的に応じて、敬語を適切に使って通信文を書く。 ・書いた文章を読み返して推敲し、言葉の使い方や表記に誤りがない文章にする。
	10	5, 論理を捉えて モアイは語る—地球の未来	<ul style="list-style-type: none"> ・各段落の役割や叙述の順序に注意して読み、内容を理解する。
	11	6, いにしえの心を訪ねる 源氏と平家 扇の的—「平家物語」から 仁和寺にある法師「徒然草」から 漢詩の風景 7, 価値を語る 君は「最後の晩餐」を知っているか	<ul style="list-style-type: none"> ・古文の表現に慣れ、古典の世界を楽しむ。 ・古典の文章を朗読して、その独特の調子やリズムに慣れ、作品を楽しむ。 ・文章を朗読してその表現に慣れ、作品を読み味わう。 ・漢詩特有の言葉遣いや調子を生かして読み味わう。
3 学 期	12	書初	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて知ったことや興味をもったところなどを、知識と体験と関連づけながら確認し合い、文章中のもの見方や考え方について自分の考えをもつ。 ・行書をバランスを整えて書く。
	1	文法②用言の活用 8, 表現を見つめる 走れメロス	<ul style="list-style-type: none"> ・用言の活用について理解する ・語句の効果的な使い方を理解し、表現の巧みさを読み味わい、描写の効果、人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる。
	2	文法③付属語 構成や展開を工夫して書こう 言葉③話し言葉と書き言葉 漢字③送り仮名	<ul style="list-style-type: none"> ・付属語について理解する。 ・気持ちや気持ちの変化が効果的に伝わるように、ある視点を定め、表現を工夫して書く。 ・方言と共通語の果たす役割について理解する。 ・送り仮名の付け方の原則を理解する。
	3	漢字③送り仮名 国語の学びを振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の学びを振り返り、国語の学ぶ意義を考える。 ・読み手のことを考え、構成や表現を工夫し、わかりやすく情報を伝える。

【数学科 シラバスについて】

令和8年度 狭山市立狭山台中学校 第2学年 数学科 授業計画

1) 教科の目標

1	文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに連立二元一次方程式について理解し、それを用いる能力を養う。
2	基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法とを理解し、推論の過程を的確に表現する能力を養う。
3	具体的な事象を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。また、具体的な事象についての観察や実験を通して、確率の考え方の基礎を培う。

2) 評価の観点

①知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の知識及び技能の習得状況について評価する。 ・それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。
②思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。
③主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

3) 評価の方法

授業や課題への取り組みの態度、定期テスト、小テスト、提出物（提出日）、ノート、ワーク、プリント、宿題、発言 等

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単元	学習内容
1 学 期	4月	1章 式の計算	<ul style="list-style-type: none"> ○単項式、多項式の意味を理解できるようにします。単項式、多項式の計算をできるようにします。 式を簡単にして式の値を求めることができるようにします。 ○等式を指定された文字について解けるようにします。整数の性質を文字式を用いて説明できるようにします。
		1節 式の計算	
	5月	2節 文字式の利用	

	6月	2章 連立方程式 1節 連立方程式	○二元一次方程式、連立方程式の意味と解の意味を理解できるようにします。加減法、代入法で連立方程式が解けるようにします。 ○連立方程式を利用して文章題を解けるようにします。
	7月	2節 連立方程式の利用	
		3章 一次関数 1節 一次関数とグラフ	○関数、一次関数の意味を理解し、その式の形や変化の割合の特徴がわかるようにします。一次関数のグラフをかくことができるようにします。一次関数の式を求めることができるようにします。
2 学 期	9月	2節 一次関数と方程式	○一次関数のグラフと二元一次方程式のグラフとは同じ関係を表していることをわかるようにします。連立方程式の解はグラフの交点の座標になることがわかるようにします。
	10月	3節 一次関数の利用	
	11月	4章 図形の調べ方 1節 平行と合同 2節 証明	○対頂角、平行線、多角形の内角や外角の性質がわかり、角の大きさを求めることができるようにします。 ○合同な図形の性質、三角形の合同条件がわかるようにします。証明、仮定、結論の意味が分かるようにします。
	12月	5章 図形の性質と証明 1節 三角形 2節 四角形	○定義の意味、定理とその逆について理解して、三角形に関する性質を証明できるようにします。直角三角形の合同条件がわかるようにします。 ○平行四辺形の性質を理解し証明に使えるようにします。等積変形がわかるようにします。
3 学 期	1月	6章 確率	○確率の意味がわかるようにします。樹形図や表を用いて起こり得る場合を順序よく整理して調べられるようにします。 ○簡単な場合について、確率を求められるようにします。
	2月	1節 確率の意味 2節 場合の数と確率	
	3月	7章 箱ひげ図とデータの活用 1節 データの分析と問題解決	○箱ひげ図や四分位範囲などの意味がわかるようにします。また、それらを用いて、データの傾向を考察し、判断することができるようにします。
		復習	○1年間の学習の総まとめをします。

1) 教科の目標

- ・地理や歴史に興味を持って、積極的に調べ、考えられる生徒の育成。
- ・社会事象に関する基礎的教養を身につける。

2) 評価の観点

<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象への理解と資料活用の技能 	<p>我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な思考・判断・表現 	<p>社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を主体的に学ぼうとする態度 	<p>社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。</p>

3) 評価の方法

【知識・技能】

- 定期テスト ○小テスト ○作業学習（調査・分析）など
- レポートの内容 授業中の小レポートの内容 など

【思考・判断・表現】

- 定期テスト ○小テスト
- レポートの内容 授業中の小レポートの内容など

【主体的に学ぼうとする態度】

- レポートの内容 ○社会科の学習に取り組む態度
- 授業中の習熟を計る单元ごとの小テストなど

* 3つの観点をこれらの方法等で評価し、それぞれA・B・Cの判定をします。

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単元	学習内容
1 学 期	4	【地理的分野】 ・日本のさまざまな地域 ・日本の諸地域	・ 地域調査の手法 ・ 日本の地域的特色と地域区分 ・九州地方 ・中国・四国地方 ・中部地方 ・関東地方
	7		
2 学 期	9	【地理的分野】 ・日本の諸地域	・東北地方 ・北海道地方
	10	・調査・探求 【歴史的分野】 近世の日本	・地理的分野を学んで ・農業や諸産業の発展 ・都市の繁栄と交通路の整備 ・幕府政治の安定と元禄文化 ・享保の改革と社会の変化 ・田沼意次の政治と寛政の改革 ・新しい学問と化政文化 ・外国船の出現と天保の改革
	11	開国と日本の歩み	・イギリスとアメリカの革命 ・フランス革命 ・ヨーロッパにおける国民意識の高まり ・ロシアの拡大とアメリカの発展 ・産業革命と資本主義 ・欧米のアジア侵略 ・開国と不平等条約 ・開国後の政治と経済 ・江戸幕府の滅亡
3 学 期	1	【歴史的分野】 開国と近代日本の歩み	・新政府の成立 ・明治維新の三大改革 ・富国強兵と文明開化 ・近代的な国際関係 ・国教と領土の確定 ・領土をめぐる問題の背景 ・自由民権運動の高まり ・立憲制国家の成立 ・欧米列強の侵略と条約成立 ・日清戦争 ・日露戦争 ・韓国と中国 ・産業革命の進展 ・近代文化の形成
	2		
	3		

※進度に応じて調査・探求学習を行なう予定

【理科 シラバスについて】

令和8年度 狭山市立狭山台中学校 第2学年 理科 授業計画

1) 教科の目標

◎自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

2) 評価の観点

(知識及び技能)自然の事物、現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に着けている。
 (思考・判断・表現)自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。
 (主体的に学習に取り組む態度)自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

3) 評価の方法

知識及び技能	定期テスト、パフォーマンステストなど
思考、判断、表現	定期テスト、実験レポートの考察、課題レポートなど
主体的に学習に取り組む態度	授業態度、課題プリント、振り返りカード、実験レポートなど

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単 元	学習内容
1 学 期	4	生物のからだのつくりとはたらき 1. 生物と細胞	<ul style="list-style-type: none"> 水中の微生物の観察を行う。 顕微鏡の使い方について知る。 動物と植物の細胞について知る。 光合成や呼吸、蒸散等について知る 目や耳、鼻、皮膚、舌などの感覚器官の特徴 神経系と運動器官のつくりと特徴 消化、呼吸、血液循環のしくみ
	5	3. 動物のからだのつくりとはたらき 4. 刺激と反応	
	6		
	7	天気とその変化 1. 気象観測 2. 雲のでき方と前線	

2 学 期	9	3. 大気の動きと日本の天気	<ul style="list-style-type: none"> • 数日間の天気図などから天気を予測する。 • 日本の天気の特徴を学ぶ。 • 大気の動きや海洋の影響を地球規模で考える。
	10	化学変化と原子・分子	<ul style="list-style-type: none"> • 加熱や電流による分解の実験を行う。 • 物質は原子・分子からできていることを理解し、原子は記号で表されることを知る。 • 2種類の物質を化合させる実験を行う。 • 化学変化を化学式で表す。(化学反応式) • 化学変化の前後で、質量が保存されることを調べる。(質量保存の法則) • 化合する物質の質量の割合を調べる。 • 酸化と還元について実験を通して調べる。
	11	1. 物質のなりたち	
	12	2. 物質どうしの化学変化 3. 酸素がかかわる化学変化 4. 化学変化と物質の質量 5. 化学変化とその利用	
3 学 期	1	電気の世界	<ul style="list-style-type: none"> • 静電気を発生させる実験を行う。 • 電流が電子の流れであることを知る。 • 回路図をもとにして、直列回路と並列回路を組み、電流と電圧の大きさを調べる。 • 電流と電圧の関係(オームの法則)を調べる。 • 電流によって発生する熱や光を調べる。 • 磁石や電流のまわりの磁界を調べる。 • 磁界の中においたコイルにはたらく力を調べる。 • コイルと磁石で電流を発生させる実験を行う。
2	1. 静電気と電流		
3	2. 電流の性質 3. 電流と磁界		

1) 教科の目標

- ①英語を使って自らコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ②4領域（聴く・話す・読む・書く）の調和を心がけ、基礎学力が定着する授業を工夫する。
- ③英語圏をはじめとする異文化に触れ、グローバルな見方や国際人としての自覚を育てる。

2) 評価の観点

- 1 知識・技能**
 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話したり書いたりして表現したり伝えあったりする技能を身に付けている状況の評価する。また日常的话题や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている状況の評価する。
- 2 思考・判断・表現**
 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝えあったりしている状況の評価する。日常的话题や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報や概要、要点などを捉えている状況の評価する。
- 3 主体的に学習に取り組む態度**
 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況の評価する。
 ※以上の観点について、聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くことについて評価する。

3) 評価の方法

- 1 小テスト・定期テスト
- 2 発表（スピーキングテスト）・音読（リーディングテスト）・英作文・小テスト・定期テスト
- 3 授業態度、ノート、ワークブック、ワークシート、その他提出物

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単元	学習内容
1 学 期	4月	1 学年の復習 辞書を読んでみよう <Program 1> New Start <Steps1> 簡単な表現で言いかえよう	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の文法事項について学習する。 ・英和辞典に書かれている内容について学習する。 ・I'm going to ~ ./ I will ~ ./ の意味や表現について学ぶ。 ・情報をまとめながらメモをとる練習をする。
	5月	<Program 2> Koshien Project in Africa <Power-Up①>天気予報を聞こう <Step 2>魅力を伝えるためのコツを知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・I think (that)-. I don't think (that)-./ When~, ... If ~, ... の意味や表現を学ぶ。 ・天気予報を聞き、必要な情報を捉える。 ・自分のおすすめしたいものを伝える工夫を考える。
	6月	<Program3> Taste of Culture <Steps2>文章の構成を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・I want to see- ./ I'll go to New York to study- . a lot of things to do. の意味や表現について学ぶ。
	7月	<Our Project④>海外でヒットするラーメンのCMを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・売り出したいラーメンの魅力を伝えるために、聞き手を引き付ける工夫をする。

2 学 期	9月	<Reading①> The Three Dolls <Power Up②>電話をかけよう <Program4> Leave Only Footprints	<ul style="list-style-type: none"> ・ Reading 活動を通して、既習事項を振り返る。 <p>I enjoy dancing.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形容詞の意味や働きを理解し、絵の内容について伝える。 ・ We must - / We have to - . We don't have to - .の意味や表現を学ぶ。 ・ レストランに入店から注文までのやり取りを学ぶ。
		<Power up③>レストランで食事をしよう <Step③>わかりやすい見出しをつけよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ パンフレットの見出しの書き方について学ぶ。
	10月	<Program5> Work Experience	<ul style="list-style-type: none"> ・ know how to do / You look- / I'll show you- .の意味や表現について学ぶ。
		<Program6> High-Tech Nature	<ul style="list-style-type: none"> ・ cuter than- , more expensive than- / the longest- , the most wonderful- / as big as- , not as heavy as- を学ぶ。
3 学 期	11月	<Power-Up4>メールで近況報告をしよう <Our Project⑤>日本のおすすめスポットを紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ メールの書き方を学ぶ。 ・ おすすめの場所の魅力が伝わるような説明文を書く。
		12月	<Reading②> Friendship beyond Time and Borders
	1月	<Program7> Unique Animals	<ul style="list-style-type: none"> ・ like better than / like the best の意味と表現を学ぶ。
		<Program8> A Hope for Lasting Peace	<ul style="list-style-type: none"> ・ is used / was built by- / is known to- , are covered with- の意味や表現について学ぶ。
	3月	<Power up⑤>飛行機のアナウンスを聞こう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飛行機アナウンスを聞いて、放送内容を正確に聞き取る。
		<Steps5>説得力のある主張をしよう <Our Project⑥>My Hero の魅力を伝えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客観的な事実や具体的な理由とともに主張する方法を学ぶ。 ・ 具体的でわかりやすい説明文を作り、文と文のつながりを意識してまとまりのある発表をする。

【技術科 シラバスについて】

令和8年度 狭山市立狭山台中学校 第2学年 技術科 授業計画

1) 教科の目標

- ・生活に必要な基礎的な知識と技術（スキル）の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する力を身につける。
- ・実習を通して、実践的・体験的に「ものづくりやエネルギーの利用」および「コンピュータの活用」等に関する基礎的な知識と技術を習得する。
- ・技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に評価し活用する力を養う。

2) 評価の観点

1. 知識・技能

*習ったことに関する理解力・身につけ方

- ①定期テストによって、知識・理解度を評価する。
- ②プリント内容等に習ったことが記入されている。

*道具の使い方、コンピュータの使用方法および機能の使い方

- ①コンピュータを適切に扱う。
- ②道具を安全に使い、正しく使うこと。

2. 思考・判断・表現

*作品に対して工夫したり、努力したりする様子が見られたか

- ①作品の仕上がりに工夫し、解決しようとしている。
- ②製作への努力をして、周囲に伝えることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

*授業に対する取り組み方

- ①忘れ物をしない。
- ②発言の機会があったら積極的にする。
- ③授業中は私語をしないで、集中して取り組む。実習（作業）は意欲的に取り組む。

3) 評価の方法

- (1) 1～3のそれぞれの観点について、A, B, Cをつけ、その観点をもとにして技術科の5段階の評定を出します。
- (2) 学年評定は家庭科の評定と合わせて、「技術・家庭科」の評定を出します。

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単元	学習内容
2 学 期	10月	【D情報】 ・情報についての基礎的・基本的な知識・技能	・情報モラルと知的財産 ・コンピュータと情報処理
	11月	【Cエネルギー変換】 ・エネルギー変換についての基礎的・基本的な知識・技能	・わたしたちの生活とエネルギー変換 ・電気エネルギーの利用 ・動力の利用 ・エネルギー変換の実際
	12月	・エネルギー変換の技術による問題の解決	・エネルギー変換題材による製作 ・実習
3 学 期	1月	・社会の発展とエネルギー変換の技術	・エネルギー変換に関する技術の評価・活用 ・使用の目的や条件によって、適切な方法を比較・検討し、設計・制作する。 ・多様な利用者が安心して利用できるプログラムを考える。
	2月	【D情報】 ・計測・制御のプログラミングによる問題解決	
	3月	・社会の発展と情報の技術	

*後期は「技術科」に切り替わります。

切り替えの時期は10月下旬を予定しています。

【家庭科 シラバスについて】

令和7年度 狭山市立狭山台中学校 第2学年 家庭科 授業計画

1) 教科の目標

<衣生活>

○健康・快適・安全で豊かな衣生活に向けて考え、工夫する活動を通して、衣服の適切な選択や着用、衣服の計画的な活用、日常着の手入れ、製作に関する知識及び技能を身に付ける。

○これからの生活を展望して、衣生活の課題を解決する力を養い、衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

<住生活>

○健康・快適・安全な豊かな住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方に関する知識及び技能を身に付ける。

○これからの生活を展望して、住生活の課題を解決する力を養い、住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

<保育>

○幼児の生活と家族について、課題をもって、幼児の発達と生活、幼児との関わり方に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、それを支える家族の役割や遊びの意義について理解する。

2) 評価の観点

①知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解をしているとともに、それらに係る技能を身につけている。
②思考・判断・表現	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3) 評価の方法

定期テスト、実技テスト、レポート、プリント 等

※学年評定は技術科の評定と合わせて、「技術・家庭科」の評定を出します。

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単元	学習内容
1 学 期	4月	【B 衣食住の生活（衣生活）】	
	5月	1 衣服のはたらきと手入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうして衣服を着るのだろう ・ 衣服は何でできているだろう ・ 衣服の手入れ ・ 洗濯の準備 ・ 洗濯機で洗濯してみよう ・ 補修や収納・保管
	6月	2 衣服の選択と着方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに衣服が必要になったとき ・ 既製服の選び方 ・ 自分らしい着方 ・ 和服の文化にふれてみよう
	7月	3 布を用いた作品で生活を演出 4 持続可能な衣生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活を豊かにするものの製作 ・ 製作の基礎・基本を知ろう
2 学 期	9月	【B 衣食住の生活（住生活）】	
		1 人間にとっての住まい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の生活を支える住まい
		2 生活に必要な住空間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活行為と空間 ・ 家族の変化と心地よい空間の使い方
		3 自然とともにある住生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の気候風土と住まい
	4 安全で健康的な住生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内事故への備え ・ 室内環境を健康に保つ ・ 災害に備えた空間 	
	10月	【A 家族・家庭生活】	
	2 幼児の生活と家族	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の頃の自分と今の自分 ・ 幼児の体と心の発達 ・ 発達にとってのおとなの役割 	
	4 家庭生活と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者とのかかわり 	
	5 持続可能な家庭生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs と家族・ワークライフバランス 	

※技術と家庭科は前期後期で入れ替わります。
切り替えの時期は10月下旬頃を予定しています。

【音楽科 シラバスについて】

令和8年度 狭山市立狭山台中学校 第2学年 音楽科 授業計画

1) 教科の目標

(1)知識及び技能	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
(2)思考力、判断力、表現力等	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
(3)学びに向かう力、人間性等	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

2) 評価の観点

①知識・技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解しているかどうかを評価する。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表しているかどうかを評価する。
②思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしているかどうかを評価する。
③主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしているかどうかを評価する。

3) 評価の方法

・学習状況の達成度をふまえ、上記①～③の観点をA・B・Cで評価し、それらをもとに5段階の評定を出します。 ・評価の材料は下記のとおりです。 定期テスト（1・3学期末）、実技発表及び実技テスト、小テスト、ワークシート、学習活動の様子、発言発表・ワーク・レポート等の内容 等

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	題材	学習内容	
1 学 期	4月	○ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の受け方、年間の学習計画、評価について ・音楽活動を通して仲間とのコミュニケーションを図る。 ・発声のための身体の使い方を理解し、豊かな響きをもった発声を身に付ける。 ・美しいハーモニーを感じて歌う力を養う。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴き鑑賞文で伝える。 ・楽器の音色や響きと奏法との関わりを理解する。 ・ギターの基本的な奏法を学ぶ。 ・音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともに、それらを生かしたまとまりのある創作表現を創意工夫して音楽をつくる。 ・オーケストラの構成を学び、管弦打楽器による表現の幅と魅力を味わう。 ・ソナタ形式の特徴を学習し。曲の構成を理解し全体を味わって聴く。楽曲全体の魅力を鑑賞文で伝える。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・生活や社会の中の音楽の意味や役割について考える。 ○音階や言葉などの特徴、音のつながり方の特徴などについて学び、それらを生かして創作表現する。 ・総合芸術の魅力を味わう。オペラの音楽から、人間の様々な感情や、ドラマを感じ取る。 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。 ・諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性を理解するとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 	
	5月	○曲想やパートの役割を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう ・校歌 ・いろいろな発声練習 ・夢の世界を		
	6月	○曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう ・フーガ ト短調		
	7月	○ギターの音色と奏法との関わりを理解して、その魅力を味わおう ・カントリーロード ○音の重なり方や反復、変化を理解して、創作表現を工夫しよう ・Let's Create! ・言葉によるリズムアンサンブル ○曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう ・交響曲第5番ハ短調		
	9月	○曲想と歌詞の内容との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう (※1～2学期) ・夏の思い出 ・サンタルチア ・荒城の月 ○曲想と音楽の構造との関わりを理解して歌唱表現を工夫しよう ・校内音楽会 学年/クラス合唱曲 (※～11月)		
	10月	○言葉の抑揚を生かして、創作表現をしよう		
	11月	・My Melody		
	12月	○オペラに親しみ、その音楽を味わおう ・アイーダ ○世界の様々な音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう ・世界の諸民族の音楽		
	2 学 期	1月		○歌舞伎に親しみ、その音楽を味わおう
		2月		・歌舞伎「勸進帳」
3月		・長唄「勸進帳」 ・寄せの合方によるリズムアンサンブル ○心をこめて合唱しよう ・卒業、進級に向けての合唱曲 ・国歌「君が代」		
3 学 期	1月	・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。		
	2月	・声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。		
	3月	・日本の伝統芸能の魅力を味わう。 ・1年間の学びを生かし、卒業式と進級に向けて先輩への感謝や、新入生を歓迎する思いを伝える合唱表現を追求する。		

教科名	美術科	学年	第 2 学 年
------------	------------	-----------	----------------

学習到達度目標

- ・主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- ・感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考えを培い、豊かに発想し、構想する能力や自分の表現方法を創意工夫して表現する能力を伸ばす。
- ・自然や美術作品などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることや美術との関わりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

学期	学習のねらい	単元名・教材名等	主な学習内容
1 学期	ポスターの持つ役割を知り、実際に製作する ・条件をふまえて色彩効果・画面構成を考え、美しく仕上げる。	【デザイン】 《条件をふまえたポスターをつくる。》	・自分のテーマの内容にふさわしい、独創的なものを考えてアイデアスケッチをする。 ・モダンテクニックの技法を用いて効果的に彩色する。 ・構想画に適した材料の技法を用いて創造的に表現する。
2 学期	静物画 淡彩でかく 鉛筆デッサンから 自分の手を見つめてスケッチをし、粘土でかたまりを意識した手をつくる。	【 絵画 】 《鉛筆デッサンをする》 【 彫刻 】 《粘土で手を作る》	・手順を理解し、自分の意図を持ち、意欲的に制作に取り組む。 ・自然や動物の姿から心豊かな表現の構想をする。 ・細部にとらわれず、大きく動きをとらえ、つくることに集中して取り組むことができる ・動勢や重心、形をかたまりとして表すことができる。
3 学期	点の粗密で表す点描の技法を知り、自分の空想、動物や植物などを構成する力を養う。 ・黒と白の世界にドットの集まり方で灰色のグラデーションも生まれることを知る。 ・集中してコツコツと仕上げる力を養う。	【 絵 画 】 《点描でかく》	・自分の空想や動物植物などの題材から白黒のバランスのとれた絵を描く。 ・細かいポイントペンで均一な点をなるべく打っていくようにして、きれいな画面を構成する。 ・集中力を保って作品を仕上げる。

評価について

【授業中の活動】

- ・毎時間の目標と作業進度を理解し、集中して意欲的に取り組んでいるか評価する。
- ・集中度や進み具合（進度点）を評価対象とする。
- ・授業で使う用具や必要な材料をきちんと用意している。
- ・自分の席できちんと作業ができる。

【学習の成果及び提出物】

- ・それぞれの題材のねらいを理解し、観察力、発想力、表現力等について評価する。
- ・絵画、デザインについては、表現するための技法項目が多く、やや比重が思い。
- ・提出物では、完成作品の70%以上を評価する。その他、アイデアスケッチ、プリントなどの提出物も評価対象とする。

【各種テストによる評価】

- ・テストは実施しない。

令和8年度 保健体育科シラバス

1 授業の目標

～豊かなスポーツライフを実現するために～

- ① 運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけられるようにする。
- ② 自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を身につけられるようにする。
- ③ 健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営むための態度を身につけられるようにする。

2 授業の約束事

～授業の約束を守りましょう～

- ① 授業の時間(開始・終了)を守る
- ② 服装を整える
- ③ 道具の忘れ物をしないように準備をする
- ④ 見学時の連絡は、保護者の方に事前に生徒手帳に記入してもらい、提出しましょう

3 評価の観点と方法

①知識・技能について

知識・技能とは…保健体育の授業を通して「何が身についているのか」です。

- 各種目における特有の技能
- 技能などのポイントについての理解
- 各種目における技能の名称やルールなどについての理解
- 運動観察の方法(自己・他者)についての理解

②思考力・判断力・表現力等について

思考力・判断力・表現力等とは…保健体育の授業を通して「身についたことをどのように活用しているのか」です。

- 自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。
- 課題解決に有効な練習方法を選択し、自己の考えを伝えることができる。
- 自己や仲間の課題について、思考し判断したことを、言葉や文章などで表したり、相手にわかりやすく伝えたりすることができる。

③主体的に取り組む態度について

主体的に取り組むとは…保健体育の授業を通して「どのように取り組んでいるのか」です。

- 健康や安全に留意することができる。
- 自己の役割を果たすことができる。(準備や片付けなど)
- 公正に取り組むことができる。(ルールや仲間を称賛するなどのマナー等)
- 互いに協力することができる。(仲間の学習を援助する、組んだ仲間と積極的に取り組む)
- 自らの意思で目標を立て、試行錯誤しながら粘り強く学び、学習状況を調整することができる。

以上のことを、体育の授業でも説明します。

※観点別評価はABCでつけ、それを受けて5段階で評定として表します。

4 各学期の学習内容について

保健体育科ではこんな学習をします

狭山台中学校で学習する保健体育は、体育分野と保健分野の2つの分野に分かれています。

○ 体育分野では

- (1) 体づくり運動 (2) 器械運動 (3) 陸上競技 (4) 水泳 (5) 球技 (6) 武道(柔道)
 (7) ダンス (8) 体育に関する理論

について学習します。

○ 保健分野では

- (1) 健康な生活と疾病の予防
 (2) 心身の機能の発達と心の健康
 (3) 傷害の防止
 (4) 健康と環境

について学習します。

授業の学習内容

	1 年	2 年	3 年
1 学期	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・新体カテスト ・陸上競技(短距離走) ・器械運動(マット運動) ・水泳 ・体育に関する知識	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・新体カテスト ・陸上競技(短距離走) ・器械運動(マット運動) ・水泳 ・体育に関する知識	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・新体カテスト ・陸上競技(短距離走) 選択1 【マット・跳び箱・ハードル走から選択】 ・水泳 ・体育に関する知識
2 学期	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・陸上競技(リレー) ・ダンス ・ソフトボール ・陸上競技(長距離走) ・保健	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・陸上競技(リレー) ・ダンス ・ソフトボール ・陸上競技(長距離走) ・保健	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・陸上競技(リレー) 選択2 【バドミントン、ソフトボール、アルティメット】 選択3 【バレーボール・卓球 ハンドボール】 ・陸上競技(長距離走) ・保健
3 学期	○オリエンテーション ・武道(柔道) ・サッカー ・バスケットボール ・保健	○オリエンテーション ・武道(柔道) ・サッカー ・バスケットボール ・保健	○オリエンテーション 選択4 【サッカー・バスケットボール・ソフトテニス】 選択5 【柔道・剣道・ダンス】 ・保健